

# 博士課程教育リーディングプログラム 平成24年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	千葉大学	申請大学長名	齋藤 康
申請類型	オンリーワン型	プログラム責任者名	徳久 剛史
整理番号	003	プログラムコーディネーター名	中山 俊憲
プログラム名	免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム		

## <プログラム進捗状況概要>

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

#### ① プログラムの目的

免疫疾患の中でもアレルギー疾患は、国民の約30%が罹患しているにも関わらず、対症療法がほとんどで患者にとってもまた医療経済上の観点からも有効な根治療法が強く求められている。自己免疫疾患も根治療法の開発には至っていない。また、癌は老化に伴う免疫力の低下により発症頻度が増加し、高齢化社会の進行に伴い今や国民の3人に1人の死亡原因となっており、良好なQOLの得られる低侵襲治療法の開発が急務である。更に、高齢者に多い動脈硬化による心血管疾患も免疫が関与する慢性炎症性疾患として捉えられるようになった。これらの疾患には「免疫システムの調節異常によって発症する」という共通の病因論的特徴がある。そして、近年の免疫学研究の進歩は目を見張るものがあるが、未だその研究成果が有効な治療法の開発に結び付くケースは著しく少ない。その原因として、臨床医学の中で最先端の技術革新の成果を活かした検査機器や検査法の開発などで大きな成果を挙げている「診断学」という学問分野とは異なり、疾病の治療法を体系的に研究し実践する「治療学」という学問分野の研究が基礎医学と臨床医学の枠を超えてシステムティックに行われていないことや、「治療学」を推進する人材を組織的に育成する土壌がないことが挙げられる。

そこで、本学位プログラムでは、「治療学」を「疾患における治療の理論的背景を明らかにし、その知見に基づき新たな治療法を体系的に研究・実践する学問」と位置付け、千葉大学の強みを生かし、かつ社会的要請の非常に強い難治性の免疫関連疾患（アレルギー、自己免疫疾患、癌、心血管疾患など）に特化して、「免疫システムの調節」という視点からの治療薬の開発を含む「治療学」を推進するリーダーを養成する。具体的な人材養成の方策としては、医学と薬学が融合した大学院医学薬学府の博士課程に「治療学コース」を設置し、将来、ますます多様化する医療ニーズに指導者として対応でき、グローバル社会でリーダーとして活躍する医師・薬剤師、研究者や行政官の育成を行う。特に、①免疫学を中心とした知識習得とともに、免疫関連疾患の病因、治療法や治療技術を理解し、②医学と薬学の境界領域を含む幅広い知識と見識を有し、③患者の立場に立った個別治療の重要性を認識し、④「治療学」の概念を基盤にトランスレーショナルリサーチや臨床研究を統括指導する能力や、⑤卓越した英語力はもちろんのこと、リーダーとして必要な人間力（多角的視点、俯瞰力、総合的判断能力、統率力など）を兼ね備えた人材を育成する。

## ② 大学の改革構想

本学では、「つねに、より高きものをめざして」の理念のもと、世界を先導する大規模総合大学として、総合的で高度な個性ある教育プログラムと最善の環境を提供することにより、自由・自立の精神を堅持して、グローバルな視点から常に社会とかかわりあいを持ち、普遍的な教養(真善美)、専門的な知識・技術・技能および高い問題解決能力をそなえた人材の育成、ならびに現代的課題に応える創造的、独創的研究の展開によって、人類の平和と福祉ならびに自然との共生に貢献することを目標としている。

特に、大学院教育においては、学術の理論及び応用を教授、研究してその深奥を究め、もって、文化の進展に寄与する有為な人材を養成することを目的とし、着実かつ積極的に改革を進めている。

## 2. プログラムの進捗状況

平成24年度はプログラム実施のための整備期間であり、体制整備、教育カリキュラムの整備、治療学演習のための教育研究環境の整備、ホームページの整備とともに、平成25年4月からの本リーディングプログラム入学者のための広報や選抜試験などをおこなった。これらの内容を以下に記す。

### 1. 実施運営体制の構築状況

1) 産・学・官のリーダーから構成される「リーディング千葉統括会議」を組織（議長：学長、委員8名）し、第1回のリーディング千葉統括会議を開催し（平成25年3月14日）、本プログラムの概要を説明したのち助言を受けた。

2) 学長直結の大学本部組織である学術推進機構（副学長、理事等で構成）会議を開催し（平成24年12月20日）、大学全体のサポート体制を確認すると共に、国際外部評価委員会の組織（委員5名、内海外委員3名）を構築した。

3) リーディングプログラム担当者会議を開催し（平成24年11月7日）、ファカルティーディベロップメントとして位置付け、運営体制等（運営会議、プログラム内各種委員会設置）を決定した。

4) 高い教養を涵養する特論、治療学演習（ローテーションユニット）、治療学実習などの新規教育プログラムのシラバス、履修案内等の整備を行った。

5) 治療学演習の為にスタッフ整備とスペースの確保（医薬系総合研究棟470m<sup>2</sup>）とともに、共通利用演習機器などを導入し教育研究環境の整備を行った。

### 2. 構想・計画の進捗状況

1) プログラムの広報と情報発信のため、記者会見（平成24年11月7日、千葉県庁）、広報用ポスター作成、ロゴ作成、学生の入試のためのポスター作成、ホームページの立ち上げなどを行った。

2) 学生選抜について：①入試教務委員会による学生選抜要項の策定とリーディングプログラム担当者会議等での承認（平成25年2月6日）、②学生募集を行い、23名の最終受験者を確認（平成25年3月15日）、③平成25年度免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム選抜試験実施（筆記試験、面接試験：平成25年3月19日）、④第2回運営会議（平成25年3月22日）にて14名の平成25年度合格決定。千葉大独自の海外入試システム「先端医学薬学国際プログラム」による海外からの応募者1名も合格。